

トビウオ通信 (H28 第 2 号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成 27 年 (2015 年) の島根県漁業の動向》

県の漁獲統計システムにより集計した県下漁業協同組合の漁獲統計資料 (属人) などから、平成 27 年 (1~12 月) の島根県漁業の動向を取りまとめました (海面漁業・漁船漁業のみ)。

全体 … 漁獲量・生産額ともに前年並み

平成 27 年の島根県 (属人) の総漁獲量は 12 万 1 千トン (平年比 93%)、総生産額は 192 億円 (平年比 101%) でした (表 1、図 1、2)。前年 (平成 26 年) と比べると、総漁獲量で 4 千トンの増加、総生産額では 2 億 9 千万円の減少となりました。漁獲量については、マアジやブリの漁獲は減少しましたが、マイワシの増加は増加しました。生産額の減少は、主にまき網でマアジ、ブリ等の比較的単価の高い魚種の減少が大きかった事によります。

漁業種類別でみると、漁獲量ではまき網が全体の 8 割を占め、漁業生産額ではまき網が全体の 40%、定置網が 12%、沖合底びき網 2 そう 曳きが 11%、小型底びき網 1 種が 10% となりました。(各漁業の動向については後述します)。

魚種別でみると、漁獲量の上位 5 魚種はマイワシ (3 万 2 千トン)、マアジ (2 万 5 千トン)、サバ類 (1 万 7 千トン)、ブリ (1 万 1 千トン)、カタクチイワシ (7 千トン) となりました (図 3)。これらのうち、マイワシは漁獲量が平年を大きく上回り (平年比 175%)、サバ類 (同 103%)、ブリ (同 83%) は平年並みでした。マアジ (同 73%)、カタクチイワシ (同 52%)、ウルメイワシ (同 46%) は平年を下回りました。

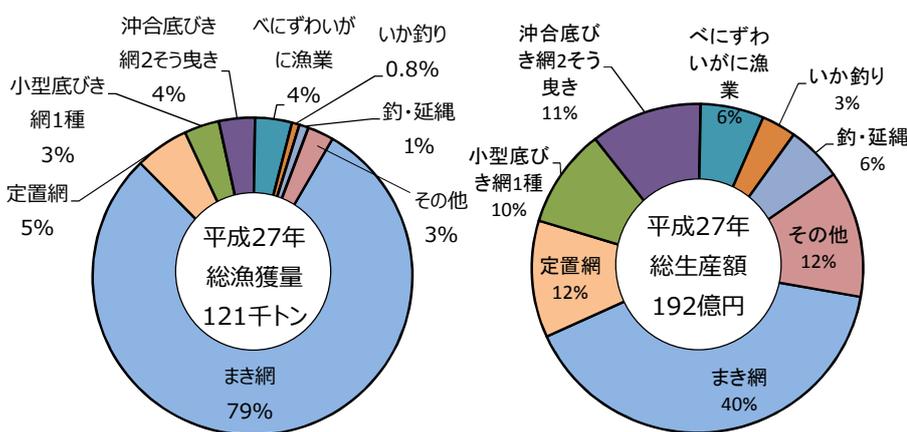


図 1 平成 27 年の島根県の総漁獲量の漁業種類別内訳

図 2 平成 27 年の島根県の総生産額の漁業種類別内訳

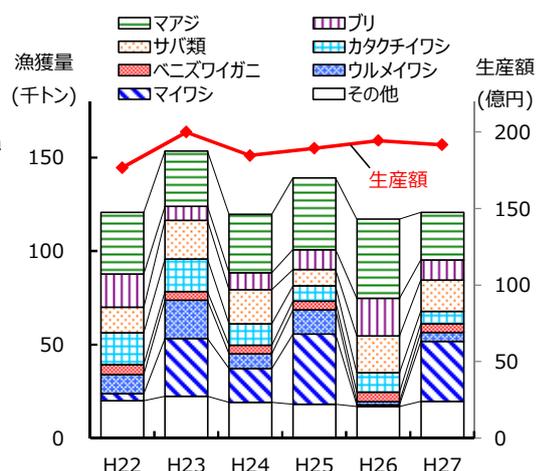


図 3 島根県の総漁獲量・金額の推移

＜文中の語句説明＞

- ☞ 平成 27 年の漁獲量・生産額および平年比は県下全地区、全経営体を対象に集計していますが、沖合底びき網の魚種別統計は実質的に県外を根拠にしている 1 経営体を除いた数値で比較しています。
- ☞ 「前年」は平成 26 年の数値、「平年」は過去 5 年 (平成 22 年~26 年)、沖合底びき網漁業のみ過去 10 年 (平成 17 年~26 年) の平均値を指します。
- ☞ 平年との比較は、平年比 120% 以上は「平年を上回る」、平年比 80~120% は「平年並み」、平年比 80% 以下は「平年を下回る」としています。

まき網漁業 ……中型まき網 1 船団あたりの漁獲量・生産額ともに平年並み

本県の基幹漁業の一つである「まき網漁業」には中型まき網や大中型まき網などがあります。これらは主にマアジ、サバ類、イワシ類などの浮魚（うきうお）を漁獲対象としています。

平成27年のまき網漁業全体の漁獲量は9万6千トン、生産額は77億4千万円でした。まき網漁業のうち大半を占める中型まき網の漁獲量は8万4千トン（平年比95%）、生産額は65億4千万円（同105%）でした（図4）。前年に比べ漁獲量はほぼ同じでしたが、漁獲金額は減少しました。1船団あたりの漁獲量・生産額共に平年並みでした（漁獲量は平年比94%、生産額は同105%）。

中型まき網を対象に魚種別でみると、マイワシは4～10月に多く獲れ、漁獲量は3万1千トンで平年比195%となりました。近年主力のマアジは春漁は豊漁でしたが、秋漁は平年を下回り漁獲量は2万1千トン（平年比74%）でした。サバ類は、春漁は平年並みでしたが10～11月に不漁で、漁獲量は1万トン（同83%）と平年並みでした。カタクチイワシは6千トン（同55%）と平年を下回り、ウルメイワシも5千トン（同52%）と平年を下回りました。

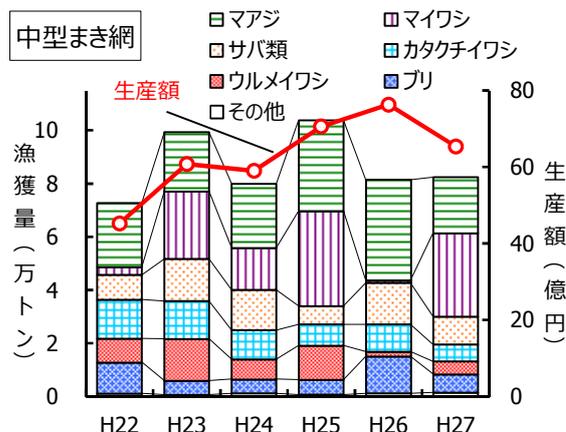


図4 中型まき網による魚種別漁獲量および生産額の推移

沖合底びき網漁業(2そう曳き) ……1 船団あたりの漁獲量・生産額ともに平年並み

沖合底びき網漁業（2そう曳き）は2隻の漁船で網を曳き、カレイ類、アンコウ、アカムツ（地方名ノドグロ）など海底付近に生息する魚介類を漁獲対象としています。平成27年の漁獲量は4千4百トン（平年比92%）、生産額は20億9千万円（同93%）でした（図5）。1船団あたりでみると、漁獲量は629トン（平年比104%）、生産額は3億円（同105%）でともに平年並みでした。長期的な動向としては1船団あたりの漁獲量・金額は横這いとなっています（図6）。

魚種別の動向ではマフグが急増し（平年比265%）、アカムツ（平年比147%）も平年を上回りました。キダイ（同117%）、スルメイカ（同87%）、マトウダイ（同100%）は平年並みでした。一方カレイ類は低調で、ムシガレイ（同66%）、ソウハチ（同55%）、アカガレイ（同56%）ともに平年を下回りました。また、アナゴ・ハモ類（75%）、アンコウ（同69%）、ケンサキイカ（同77%）も平年を下回りました。

沖合底びき網（2そう曳き）

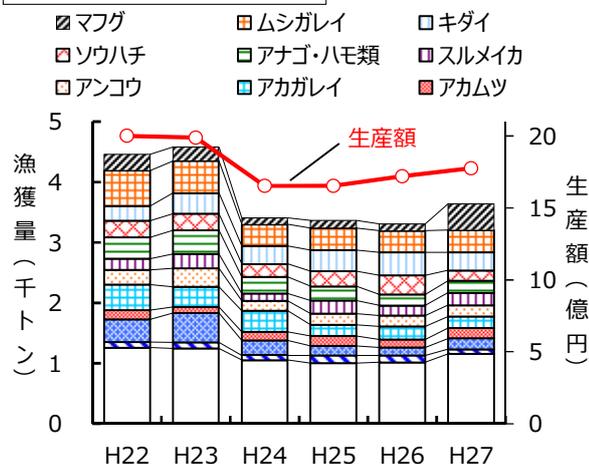


図5 沖合底びき網漁業（2そう曳き）による魚種別漁獲量および生産額の推移（一部経営体を除く）

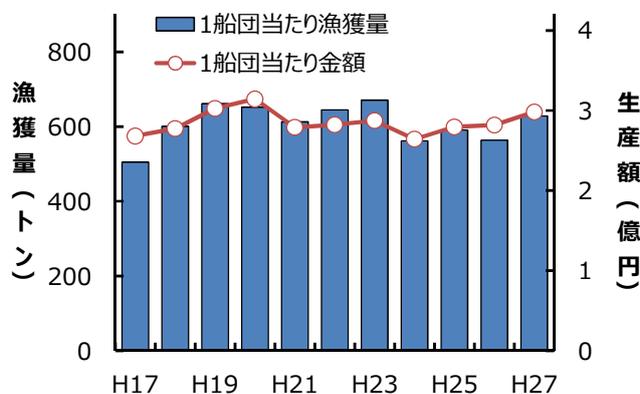


図6 沖合底びき網（2そう曳き）1船団あたりの漁獲量・生産額の推移

小型底びき網漁業 1種 …… 1隻あたりの漁獲量・生産額ともに平年並み

小型底びき網漁業1種は、1隻の漁船で「かけまわし」と呼ばれる漁法で操業し、カレイ類、ニギス、タイ類など海底付近に生息する魚介類を漁獲対象とします。平成27年の漁獲量は4千3百トン（平年比82%）で、生産額は18億6千万円（平年比97%）でした（図7）。本漁業の操業隻数は廃業や減船により平成22年以降で55隻から45隻まで減り、全体の漁獲量は減少しています。1隻あたりでみると漁獲量は96トン（平年比92%）、生産額は4千2百万円（同107%）とともに平年並みとなりました。

魚種別の動向では、マダラ（同83%）、ヒレグロ（同94%）、アナゴ・ハモ類（同100%）、ニギス（同88%）、アカガレイ（同87%）は平年並みでしたが、ソウハチ（同68%）、ムシガレイ（同70%）、アカムツ（同73%）、アンコウ（同73%）、キダイ（同58%）、ケンサキイカ（同27%）は平年を下回りました（図7）。また、ヤリイカが平年の497%と急増しました。

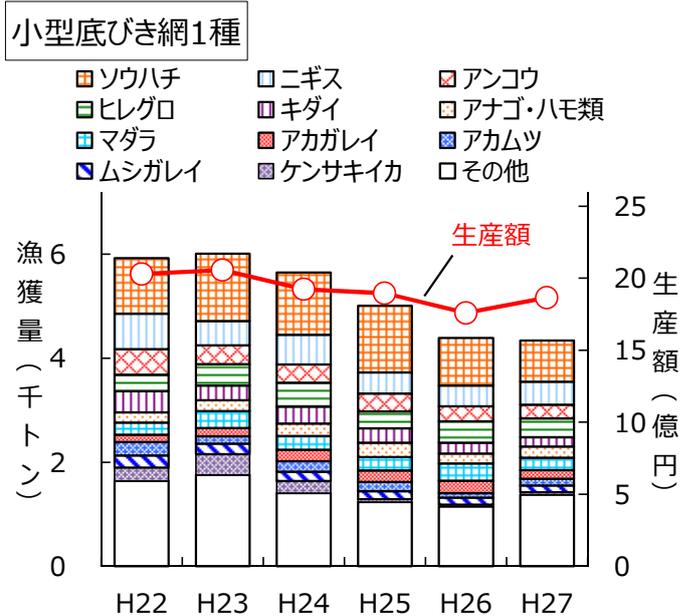


図7 小型底びき網漁業1種による魚種別漁獲量および生産額の推移

定置網漁業 …… 漁獲量・生産額ともに平年並み

定置網漁業（大型定置網・小型定置網・底建網）は魚類の通り道に網を張り、網に入り込んだものを漁獲する漁法で、マアジ、ブリ、サバ類、イカ類などが漁獲対象となります。平成27年の漁獲量は6千6百トン（平年比113%）、生産額は22億円（同109%）で、ともに平年並みでした（図8）。また、定置網漁業の全漁獲量の約8割を占める大型定置網の1ヶ所あたりの漁獲量（同115%）、生産額（同111%）についてもともに平年並みでした。

地区別の漁獲動向をみると、出雲地区ではサワラ類（平年比150%）が平年を上回りましたが、マアジ（同110%）は平年並みで、ブリ（同68%）が平年を下回りました。総漁獲量は平年並み（同109%）となりました。

石見地区ではケンサキイカ（平年比154%）が平年を上回り、マアジ（同104%）、サワラ類（同105%）は平年並みでしたが、ブリ（同46%）が平年を下回ったため、総漁獲量は平年並み（同95%）となりました。また、夏季にはコシナガが多く漁獲されました（同212%）。

隠岐地区では主要な魚種であるマアジ（平年比141%）、スルメイカ（同236%）、ブリ（同141%）、サバ類（同228%）が平年を上回ったため、総漁獲量は平年を上回りました（同136%）。

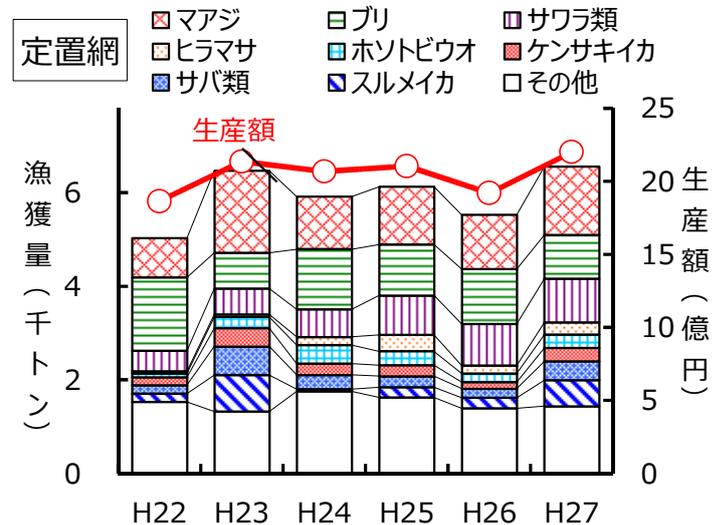


図8 定置網漁業による魚種別漁獲量および生産額の推移

釣り・延縄 …… 漁獲量は平年を下回る、生産額は平年並み

釣り・延縄の平成27年の漁獲量は1千1百トン（平年比78%）で平年を下回り、生産額は10億5千万円（同102%）で平年並みでした（図9）。長期傾向としては本漁業の漁獲量は経営体数の減少などにより減少傾向にあります。前年に比べると、平成27年は漁獲量（前年比86%）は減少したものの、生産額（前年比115%）は増加しました。

地区別の漁獲動向をみると、出雲地区ではサワラ類（同175%）が平年を上回りましたが、漁獲量の約半分を占めるブリ（平年比69%）が平年を下回ったため、総漁獲量（同86%）は平年並みとなりました。マダイ（同92%）、アマダイ（同105%）は平年並みでした。

石見地区でもブリ（平年比53%）は平年を下回り、クロマグロ（ヨコワ、平年比18%）やメダイ（同14%）も平年を大きく下回りました。一方、サワラ類（同158%）、ヒラマサ（同124%）、キダイ（同160%）、その他のハタ類（主にクエ、同202%）は平年を上回りました。クエは近年石見地区で漁獲が増えており、単価が高いことから平成27年の地区の魚種別漁獲金額では首位となっています。

隠岐地区ではブリ（平年比50%）、マダイ（平年比68%）、クロマグロ（同79%）、キダイ（同70%）は平年を下回り、カサゴ・メバル類（同88%）は平年並みで、キダイ（同230%）は平年を上回ったものの、総漁獲量は平年を下回りました（同73%）。また石見地区と同様メダイ（同15%）は非常に減少しました。なお、漁獲金額ではクロマグロ（養殖種苗用の活ヨコワが主体）が地区全体の約半分を占めました。

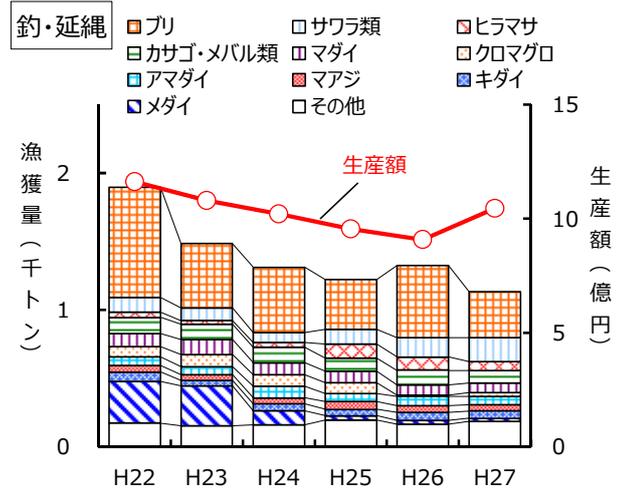


図9 釣り・延縄による魚種別漁獲量および生産額の推移

イカ釣り …… ケンサキイカは不調、スルメイカは平年並み

イカ釣り漁業は名前の示すとおりスルメイカやケンサキイカなどのイカ類が漁獲対象で、本県では夜に集魚灯（漁火）によりイカを集める夜釣りが主流です。また、漁船の総トン数により「イカ釣り5トン未満」「小型イカ釣り（5トン以上30トン未満）」「中型イカ釣り（30トン以上185トン未満）」に区別されます。

平成27年の漁獲量は921トン（平年比74%）、生産額は6億5千万円（同89%）で漁獲量は平年を下回りましたが、金額では平年並みとなりました（図10）。魚種別で見ると、ケンサキイカは前年と同じく秋季来遊群が少なかったため、漁獲量は496トン（平年比60%）で平年を下回りました。スルメイカは1～2月に多くの漁獲があり、その後も平年並みの漁獲が続き、漁獲量は402トン（平年比111%）で平年並みとなりました。ヤリイカの漁獲量は20トン（平年比98%）と平年並みでした。また、ソデイカはほとんど漁獲がありませんでした（平年比0.3%）。

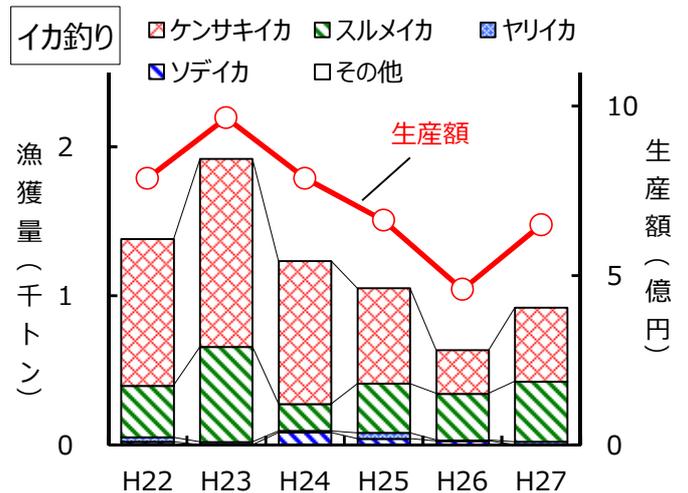


図10 イカ釣りによる魚種別漁獲量および生産額の推移

※ 各漁業の概要やトビウオ通信バックナンバーについては島根県水産技術センターのホームページをご覧ください。
（<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>）

表1 平成27年の県内主要漁業の海別漁獲量・生産額

漁業種類	海区	漁獲量※			生産金額※			1ヶ統あたり漁獲量※			1ヶ統あたり生産金額※		
		量(トン)	平年比	前年比	金額(百万円)	平年比	前年比	量(トン)	平年比	漁模様	金額(百万円)	平年比	漁模様
すべての漁船漁業	全県	120,679	93%	103%	19,160	101%	99%	—	—	—	—	—	—
中型まき網	石見	5,867	117%	114%	709	86%	67%	1,958	120%	◎	220	89%	○
	隠岐	77,655	94%	102%	5,829	108%	89%	9,429	96%	○	708	112%	○
沖合底びき網2そう曳き	出雲・石見	4,400	92%	112%	2,087	93%	106%	629	104%	○	298	105%	○
小型底びき網1種	石見	4,106	86%	100%	1,773	102%	108%	99	93%	○	43	110%	○
定置網 ※※	出雲	3,886	109%	113%	1,525	111%	117%	255	107%	○	104	111%	○
	石見	876	95%	111%	272	101%	112%	188	114%	○	56	116%	○
	隠岐	1,794	136%	137%	404	107%	108%	411	142%	◎	96	111%	○
釣り・延縄	出雲	570	86%	92%	376	96%	101%	—	—	—	—	—	—
	石見	353	71%	85%	304	87%	96%	—	—	—	—	—	—
	隠岐	212	73%	73%	365	129%	167%	—	—	—	—	—	—
イカ釣り	出雲	432	73%	143%	334	93%	140%	—	—	—	—	—	—
	石見	226	88%	179%	199	112%	165%	—	—	—	—	—	—
	隠岐	263	67%	127%	116	59%	116%	—	—	—	—	—	—

※ 全体の漁獲量・生産額・平年比は県内全漁協・全経営体が対象。

平年比：過去5年(H22～H26年)の平均値との比較、沖合底びき網2そう曳きのみ過去10年(H17～26年) 漁模様：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

※※定置網の1ヶ統あたり漁獲量・生産金額は集計対象期間(H21～H27年)に操業実績のある大型定置網のみを対象に算出。